



ゆうあい

校長ブログ→



学校教育目標：『在りたい自分を創る主人公』

2025(Ｒ7)年 7月 1日
豊岡市立豊岡小学校 学校だより
No6 児童数323名

演劇ワークショップで見える非認知能力

～子どもたちに育てたい資質・能力～

◆先日2年生を対象に、演劇ワークショップが行われました。これは、豊岡市の非認知能力向上事業として、市内すべての小学校1・2年生で行われている取組です。非認知能力は「漢字や計算などのテストで測ることができる認知能力」以外の能力のことを指しています。

◆非認知能力はたくさんあり、とりわけ年齢が小さい時に、アウトプットする活動で、適切な大人の関わりを通して向上するもので、どの子も持っているものです。

【非認知能力の具体例】

○自己効力感 ○自己肯定感 ○主体性 ○粘り強さ ○計画し実行する力
○自制心（感情や行動のコントロール） ○協働性（コミュニケーション力）等



「変化の激しい社会を生き抜く力を育むために、非認知能力（社会情動的スキル）が重要。」「小さな成功体験を積むことが大切。」（文部科学省 HP から）

◆演劇ワークショップでは、次のような子どもの姿が見られました。

○ひらがな5文字以内のお題を自分たちで考える時に、グループでどの子もアイデアを出し、納得の上でお題を決められる。（主体性・合意形成能力）

○お題が議論されている間にも、「それいいね」「じゃあ、もっと～だったら・・・」など仲間の意見に自分の考えを付け加え、発展させている。（コミュニケーション力）

考えたお題「もちつき」「スイミー」「けいむしょ」「さかなつり」

○お題が決まったら、だれがリーダーでもなく「練習しよう」と言われなくてもグループ内で練習が始まる。しかも、お互いの動きを見ながら、何度もやり直したり、作りかえたりしながら、伝えたい表現が磨かれていく。それらはすべて、自己選択、自己決定されていて、悩みながら創り上げられている。（主体性・協働性・粘り強さ・自制心・計画実行力）

○発表する場では、発表者は自分の役を自覚し、他者を意識しながら表現する。見ている者は、すぐに答えが言いたくても我慢し、じっと発表を見続ける。途中で見ることをやめたり、ふざけて発表を邪魔したりしない。（自制心）

◆演劇ワークショップを指導するのは、プロのファシリテーターです。じっくりと

子どもたちを観察し、必要最小限の関わりで子どもたちの参加意欲を促します。発表後は、「～しているとき、私には～みたいに見えてステキだったよ。」など肯定的なコメントをもらいます。子ども同士でも、コメントし合います。普段の子どもたちの姿に加え、よく考えたり、よく聴き合って話し合ったり、折り合いをつけたりしている姿がとても印象的でした。

◆このように、子どもたちの非認知能力は、自分の良さに気づき、それを活かし、自ら粘り強く「在りたい自分」を創り続ける原動力となっていきます。普段の学校生活でも発揮されている非認知能力を、さらに高めていってほしいと思います。



【県教育長及び県内市町教育長による共同メッセージ】

～働き方改革の推進に向けて～

県教育委員会は、学校における働き方改革を一層推進するため、標記のメッセージを公表しています。豊岡市においても、すべての教職員が精神的なゆとりをもって一人一人の児童生徒に接することができるよう教職員の働き方改革に取り組んでいます。（右のQRコードを読み取りご覧ください）

《豊岡小学校の取組》

- ① 定時退勤日⇒毎週木曜日 18:00
- ② 学校行事や授業時数の見直し
- ③ 勤務時間外の留守番電話対応（18:00～7:30）
- ④ コミュニティスクールの推進と外部人材活用 など



